

告別のことば

第二八〇号の山川さんの通信の末尾にただ一行、

「父は二月十七日に逝きました」

とありました。感慨を表現する言葉の一切が省かれ、凜として屹立するこの一行に、山川さんの凝集された想いがこもっているように思われて暫く眺め入りました。これ以上は無い、見事に簡潔な報告でした。私事は私事、仕事は仕事、通信は通信とけじめをつけておきたいという山川さんの、シャンと伸ばした背筋が見えるようです。

でも、遺された者の、千万言を費やしても他人には伝えきれない想いが、この一行には込められている筈です。贅言無用、衷心黙祷させて頂きます。

また諸事錯綜して通信の製作はさぞかし大変であったことと御察しします。御敢闘を感謝します。有難うございました。

(五時通信 二八二号 一九九九年四月十日)